

冠動脈カルシウムと認知症に有意な関連

これまでの研究で、血管損傷が認知症発症に関係することが示唆されている。しかしながら、無症状の血管系疾患と認知症との関係について長期的に検証した研究は少ない。本研究では、一般住民を対象に、無症状の血管系疾患の生化学的指標である冠動脈カルシウムと認知症との関連について検討した。

2000～2002年の試験開始時に45～84歳で、心臓血管病および明らかな認知障害のなかった6,293人を対象とした。認知症の同定には、入院および死亡証明書の「疾病および関連保健問題の国際統計分類」コードを用いた。冠動脈カルシウムの測定には、心臓のCT検査から冠動脈カルシウムスコアを算出した。結果、追跡期間中央値12.2年の間に271例が認知症を発症した。試験開始時の冠動脈カルシウムと認知症リスクの間に段階的な正の関連性が認められた。認知症発症のリスクは、冠動脈カルシウムがない場合と比べ、冠動脈カルシウムスコアが1～400で1.23倍、401～1,000で1.35倍、1,001以上で1.71倍であった。この関連性は、一時的な脳卒中、心臓血管病で部分的に説明されるが、イベント発生を除外した後も試験開始時の年齢に関わらず有意な関連がみられた。

したがって、冠動脈カルシウムスコアが高いと将来的に認知症を発症するリスクが高くなることが示された。この結果は、血管損傷が認知症発症に関与するという仮説を支持するものである。

出典：Circulation. Cardiovascular imaging. 2017 May; 10(5): pii: e005349.